

# アミーゴ会だより

2023年7月  
通巻第55号  
季刊 2023-III

[www.mex-jpn-amigo.org](http://www.mex-jpn-amigo.org)



発行人：河嶋正之  
編集人：河嶋正之  
事務局：吉野 隆

メキシコへの誘い：歩行記 7

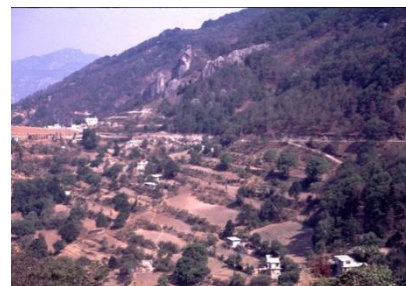
## ぶらりメキシコ人旅 —イダルゴ州の奥座敷 2: サン・アンドレス・ティアングステンゴ— (San Andrés Tianguistengo)

メキシコ・日本アミーゴ会 会員  
写真家・ルポライター 阿部修二

### はじめに

前回4月号で紹介したアクトパンに滞在中、東にそびえるフライレス(修道士: Frailes)山脈が気になり、その麓にある村、フライ・サンフランシスコ(Fray San Francisco)を尋ねてみたいと思ったのだった。雑貨屋のご主人に「いいところだよ」とたきつけられてその気になり、ちょうどその店先で客待ちをしているコンビ(乗り合いタクシー: combi)に乗り込んだのだった。が、大きな荷物を抱えた先客達、可愛い色のスカートに白いエプロン姿のご婦人達に、このコンビで村に行っても明日の朝まで帰りのコンビが無いよと教えられて、残念ながら行くのを諦めたのだった。まだ昼の1時だというのに。その村人の交通手段は一日一往復のこのコンビが頼りだということらしい。

以上の経緯で、まだ帰りの便のあるその近隣のサン・アンドレス村を訪ねることにしたのだった。アクトパンから東に10km。この村の正式な名称はサン・アンドレス・ティアングステンゴで、スペイン人がこの集落にサン・アンドレス・アポストール教会を建てて布教活動したことにより、サン・アンドレスが冠され、それが今日の愛称となったようだ。ところがこの“ティアングステンゴ”と言う古来の名称は、近辺の集落の人を集めるティアングス(露店市: tianguis)が開かれる集落にはどうしても思えない山間の小村だった。見所と言えバラ・ペニャ・ラルガ(巨大岩)という人形の形をした奇岩だけである。



段々畑とラ・ペニャ・ラルガ

実は前日、アクトパン中心から3kmほどの所にあるピエドラ・デ・ロス・エレファンタス(象の岩)と呼ばれ、象が寝そべっているように見える巨大な二つの岩塊が平地からポコリと突き出た風景に魅せられてそこまで歩き、その岩山に登ってみたのだった。その日は若い女先生に連れられた小学生たちも来ていた。田舎の子供たちからどこから来たのかと質問攻めにあい、トキオ(Tokio=Tokyo)だと応えると目を丸くして驚いて見せる。その長いまつげと黒い瞳は美しい。そうした可愛い被写体を撮らないわけにはいかない。女先生に許可を貰って記念撮影をし、トキオから送るからと約束したのだった。その私が子供たちと出会ったピエドラ・デ・ロス・エレファンタスから、東に見えるフライレス山脈の頂上に修道士が立っているように見える岩が見えていたのだ。



象の岩の地元小学生たち



象の岩から見たフライレス山脈

### ＝ 目 次 ＝

- |  |              |
|--|--------------|
| 1. メキシコへの誘い：「ぶらりメキシコ人旅 7<br>—イダルゴ州の奥座敷「サン・アンドレス・ティアングステンゴ」 | 会員 阿部修二 ...1 |
| 2. アミーゴ会活動報告：「アミーゴ会懇親ゴルフコンペの報告—7月11日湘南カントリークラブで開催」         | 幹事 南郷茂伸 ...3 |
| 3. メキシコ短信：「AMLO 大統領の高い支持率続く」                               | 編集部 ...4     |
| 4. メキシコ短信：「2024年大統領選挙：与野党の立候補希望者出揃う」 / あとがき                | 編集部 ...5     |



## ここは落人の郷？

さて、話をサン・アンドレスに戻そう。この村に行くには先のピエドラ・デ・ロス・エレファンタスの間を走るアジェンデ通りを東に進み、途中から細くて未舗装のア・サン・フランシスコ通りに入る。何度もカーブを切りながら、徐々に高度を上げて行く。山の中腹を掘削して造った車一台がやつの細い道で、谷側を見れば、メキシコ中央高原特有のサボテンや低灌木の急斜面が続いている。30m 先は谷底。タイヤが轍をあやまれば、車は樹木のほとんど無い崖を転げ落ちる以外にない道だ。そのデコボコの道をコンビは速度をゆるめることもなく進む。私は目の前の手すりを強く握りしめているが、時折タイヤが大きな石塊を踏むと、鉄板でできた座席の上の尻が 10cm も浮き上がり、痛みとともに着地することになる。でもその痛みは、右眼下にある崖の恐怖に勝ることはなかった。

私は村の入り口、道が Y の字に二手に分かれる地点でコンビを降りた。その周辺の林には落葉樹と思われる木が、すっかり乾燥してカールした枯



乾燥しきった雨期前の林

れ葉をつけたまま無言のまま立っていた。林の中を歩けば、枯れ葉がパリパリと音を立てて砕けた。まるで、ポテトチップスの上を歩いている様な感じだ。私がここを訪ねたのは 4 月 30 日。日本ならば緑がいきり立ち、人々に希望を与える季節なのだが、ここサン・アンドレスで見た風景は植物には過酷な自然だった。

さて、コンビを降車した地点から東を眺めると、谷の緩やかな斜面にマゲイサボテンに縁取られた段々畑



マゲイサボテンと花芯

が見えていた。余談になるがこのマゲイサボテンは、段々畑の土が谷側に滑り落ちるのを妨ぐ土塁の役目を果たしていると同時に、アグア・ミエル（甘い水）を採集し、砂糖水やわずかにアルコールを含んだ先住民の飲料プルケを造るのにも使われる。また、数年に一度だけ 3m も立ち上がるその花芯は、先住民戦士の槍の材料として使

われていてきわめて丈夫である。話を戻そう。その決して広くはない耕作地の脇には、持ち主の家と思われる小さな石造りの建物があった。普通、メキシコのどんな田舎でも修道院・教会の周辺に民家を集中させて



急斜面の畑で働く人々



教会のある村の中心部

耕作地と切り離しているものだ。だが、ここサン・アンドレスでは民家は畑とともにある。遠方の高台に教会らしきものが見えるが、そこに

多くの住宅があるようには見えない。今でも 600 人がここで暮らしているようだ。だが、家が谷間に分散しているために、その人数がここに住んでいる様にはとうてい見えない。

サン・アンドレスの住民が平地の少ないこの谷間に住み着いたのはいつの時代かの資料は無い。プレヒスパニック時代からか、それともスペイン人がメキシコに現れた後に、征服者から自由であろうとしてこの地に移り住んだのか。あくまでも想像の域をでないが、被征服時、彼らはここに住んでいなかったと思われる。というのも、ここに先住民が住んでいたとしたら、統治の利便を考えてスペインが取った集住政策で、民家が教会周辺に集められ集落ができていたはずだからである。そして、たぶん彼らの故郷、パチューカ南西 30km にあるティアングステンゴからスペイン人の支配、圧政を逃れて、この山の中に逃げ隠れたのではと想像する。

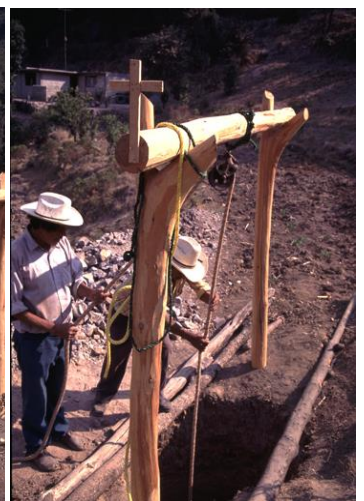
それにしても、平地の無い乾燥したこの谷間で生活するのはさぞかし大変だろうなおもいながら段々畑を眺めていたら、喘息持ちのロバが首を絞められ、息をするのも苦しいとばかり鳴きだしたのだ。その悲壮な声は狭い谷間にこだまして、サン・アンドレス村で暮らす住民をいっそう惨めにする効果音となり、私の気持ちをまた萎えさせた。

## 高台で井戸を掘る！

村の入り口の Y 字路からその谷間を望んでいたら、道から 10m ほど下った所に数人のセニョールたちが井戸掘り作業をしているのが見えた。川など見当たらないこの土地は、水不足が大きな問題であることは容



井戸を掘る村人



安全祈願の十字架

易に想像できた。でも段々畑を見下ろすような高台に水が湧くものだろうか疑念を持ちながらその作業場に近づき、みんなに挨拶をしてから、掘り進んでいる穴の中を覗かせて貰った。5m 程の底で鉄の棒を手



したセニョールが、岩盤を掘り進んでいる。残念ながら水の一滴もそこには見えなかった。2本の丈夫な枝木に渡した横木、それに結わえられた滑車を介して瓦礫をいれたバケツを、ロープで地上のセニョールたちが力を合わせて引き上げている。その枝木には小さな木製の十字架が打ち付けられていた。念願成就と安全祈願のためか。

「こんな丘の中腹で井戸は無理じゃない？」と心の中で同情の言葉をつぶやきながら、私は背中中のバッグを地面において彼らに加勢とばかり張り切り、一緒にロープを引くのを手伝った。でもそれはほとんどマネだった。と言うのも、ここは標高2300mの高地であることを私は忘れていたからだった。息がゼイゼイして、すぐに私は降参することになった。セニョール達はあきれ顔で私をみている。でも過酷な環境と対峙して生きている彼らの温情の笑顔は「鍛え方がちがうよ」と言っているようだった。

彼らからサン・アンドレス教会までの行き方を聞き、無事に井戸水を手にすることを祈念して別れた。北側にある段々畑を見ながら東に進むと道はまたふたつに分かれた。一つがサン・アンドレス・アポストール教会に向かう道。こちらの道には幼稚園などの公共施設がある。もう一つは前述したラ・ペニャ・ラルガに向かう道である。

この巨大岩ラ・ペニャ・ラルガは人形の姿をした岩



ラ・ペニャ・ラルガ(巨大岩)

の前にもう一つの大岩がそそり立っている。その巨大岩の方から歩いてきたセニョールが言うには、この岩は昔から信仰の対象であったそうだ。今でも地元の人達の尊敬を受けていることは間違いないが、大っぴらには祝えない事情があった。昔はこの岩を対象にして祭りが催されていたことはほぼ間違いない。だがキリスト教がこの地に持ち込まれ、偶像

崇拜を厳しく取り締まったことで、ついには途絶えてしまった可能性がある。

さて、もう一つの道を進むと、この谷間の小村にしては比較的広い平坦な土地があった。そこで見かけたのは、波板トタンの屋根をもつ小さな教会の建物と、その背後にある石造りの新しい教会である。

懐かしくも愛らしい古い教会の前庭は今ではバスケットコートになっていて、十字架ではなく、なぜだかバスケットのゴールポストが立っていた。



旧教会(前)と新教会(奥)

私がこの村を訪ねた時にはこの白い漆喰の教会は、新しい石造りの立派な建物が完成しても解体されることなくそこに残されていた。そのために新しい教会の威容を台無しにしていることは否めない。残念ながらこの日、2つの教会の扉が施錠されていて、中を拝観することはできなかった。土日、祝日にアクトパンから神父がやってきて、ミサをおこなっているようだ。

物置に見える古い教会を一回りしてみた。北側の広



旧教会壁の草花の絵

い白壁の真ん中に、ぼつんと小さな絵が描かれているのに気がついた。花瓶に活けられた永遠に枯れない草花。その繊細なタッチの絵は、村人達の祈りなのかも知れない。厳しい環境に生きるこのサン・アンドレスの村人の心は、この一幅の絵で癒されていたにちがいない。今日では古い教会は解体されて、この絵も見られなくなってしまった。

[写真複製不可](連載その7完)

阿部修二会員に「ぶらりメキシコ人旅」と題して、メキシコのあちこちを訪ね歩いたエッセイを連載していただいています。

- 第1回(2022年1月号)：トラスカーラ
- 第2回(同4月号)：ケレタロ
- 第3回(同7月号)：ハルバン&コンカ
- 第4回(同10月号)：ラング、ティラコ&タンコヨル
- 第5回(2023年1月号)：シリトラのエドワード・ジェイムスの庭
- 第6回(同4月号)：イダルゴ州の奥座敷「良く肥えた土地」アクトパン
- 第7回(同7月号)：イダルゴ州の奥座敷2：サン・アンドレス・ティアングステンゴ

阿部さんは2005年よりアミーゴ会会員。1947年岩手県花巻市生まれ。岩手大学工学部卒及び桑沢デザイン研究所ビジュアル・デザイン科卒。日本写真家協会元会員。メキシコ教会美術に惹かれ1986年より毎年渡墨。2005年以降4冊のメキシコ関係書籍を発行。最新作は『先住民のメキシコ—征服された人々の歴史を訪ねて』(2021年9月刊 明石書店)です。

[写真転載不可] <編集部>

\*\*\*\*\*

アミーゴ会活動報告

アミーゴ会懇親ゴルフコンペの報告

昨年秋の懇親ゴルフコンペが雨で流れたこともあり、ほぼ2年ぶりの開催となりました。関係者のご尽力により7月11日に湘南カントリークラブにおいて、暑さをものともせず、総勢23名(男性20名、女性3名)の参加者を得て行われ、見事に全員完走しました。



晴れて優勝の榮に浴したのは足立良作様、2位が前田昭一様、3位は長沼昭二様でした。(報告：南郷担当幹事)

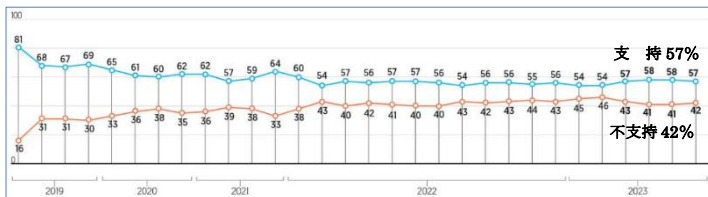
## AMLO大統領の高い支持率続く

メキシコの大統領選挙は2024年6月、上下国会議員選挙等とともに実施される。大統領選に関しては本誌2023年4月号で概観したように、与野党とも党内予備選挙に向けて立候補意思表明が相次いでいる。本稿では任期6年目に入ったアンドレス・マヌエル＝ロペス＝オブラドール (AMLO; アムロ) 大統領の支持動向を「6月月例調査」(金融専門紙El Financiero紙 2023年7月3日付電子版)で、AMLO政権の業績評価を「四半期調査」(一般紙 El Universal紙 2023年5月23日付電子版)で概観し、2024年選挙の趨勢を考える素材としたい。まとめ：編集人

### 6月月例調査：57%と高位安定

AMLO 大統領の支持率は安定しており、最新の6月調査でも前月比1%ポイント減の57%と手堅い支持率を確保している。他方、不支持率は同1%ポイント増の42%となっている(図1)。因みに経済紙 El Economista 紙の日々調査7月7日付でも支持率61.0%(前年同月日比1.9%ポイント増)、不支持率38.9%(同2.1%ポイント減)と高位安定している。

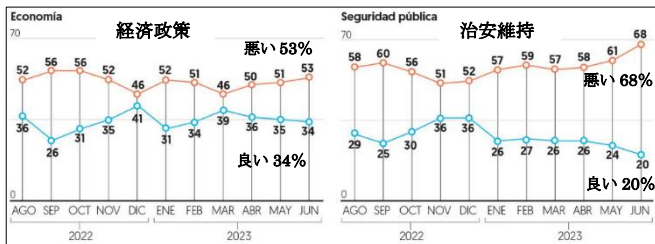
図1. AMLO 大統領の支持率推移(%)



また、2018年選挙でAMLO候補に投票した有権者(有効投票の55%)のうち回答者の87%の人々がAMLO大統領の政治実績を評価し、12%が否認している。また、他の候補に投票した有権者(同45%)は同じく19%が評価し、80%が否認している。

AMLO 政権の政策課題別の評価をみると、治安維持政策については評価が下がり、良い(=とても良い+良い)が前月調査の24%から20%に、悪い(=とても悪い+悪い)が同61%から68%に上がっている。また、経済政策は53%が悪いと評価し、良いが34%となり、総体的に評価が低下している。

図2. 政策課題別評価の推移(%)



汚職・腐敗対策は意見が分かれ、回答者の36%が良い(=とても良い+良い)と答え、41%が悪い(=とても悪い+悪い)と答えた。いつも高い評価を受ける社会給付政策は良いが44%、悪いが37%だったが、前月より前者が5%ポイント減、後者が7%ポイント増となった。

他方、El Economista 紙の7月7日付記事では、経

図3. 経済動向と治安状況の評価

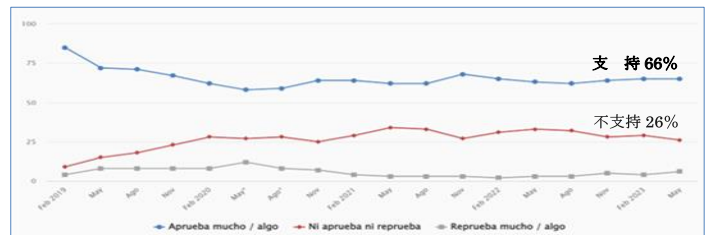


\* URL : [Aprueba 57% labor de AMLO en junio, según Encuesta EF - El Financiero](https://www.financiero.com.mx/encuestas/encuesta-ef-2023-07-03)  
 \* URL : [#AMLOTrackingPoll Aprobación de AMLO. 7 de julio \(eleconomista.com.mx\)](https://www.economista.com.mx/encuestas/encuesta-ef-2023-07-07)

### 5月四半期調査：66%と高位安定

AMLO 大統領の政治業績の四半期毎総合評価は極めて安定しており、本年5月調査でも支持が66%、不支持が26%と数年来大きな変化は見られない(図1)。

図1. AMLO 大統領の業績評価推移(%)

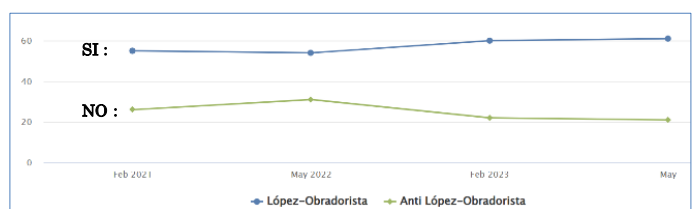


個別の政策課題別に見ると、高い評価の上位は高齢者支援(26%)、一般給付(15%)、経済政策(11%)、若者支援(8%)、公共事業(6%)で、回答者のうち82%が「良い」(複数回答)と答えている。他方、低い評価は順に社会の安全(8%)、統治手法(7%)、経済政策(5%)、社会給付(5%)、富裕者給付(3%)で、44%が「悪い」と答えている。また、政策全般について個人的に恩恵を受けたと答えた回答者は約60%、否との答は約40%。逆に有害だったかとの質問には、否が約80%、諾が約20%だった。

AMLO 大統領の個人的資質について、そのイデオロギーを約50%が現代的、約40%が因習的と評価している。また、彼の自制心については約60%が自らの誤謬を認める性格、約25%が認めない独善的性格と認識している。その我慢力については約70%が忍耐的である、約25%が権威的であると答えている。

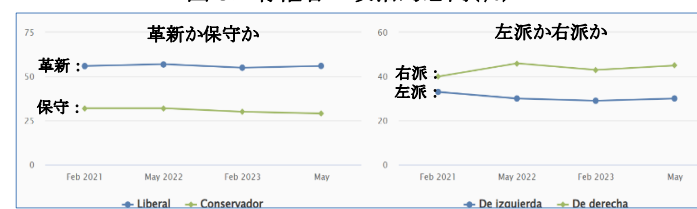
あなたはAMLO主義者(Obradorista)ですか、反AMLO主義者ですかとの問いには、回答者の約60%が前者と答え、約20%が後者と答えている。

図2. AMLO 主義者か否か(%)



他方、回答者自身の政治的志向については、約55%が革新的(リベラル)、約25%が保守的と答え、同時に自分は左派的傾向であるとの答は約30%で、右派的性向との答えが約45%あり、編集子には回答者の自己規定について些か興味深い結果が出ている。(この項完)

図3. 有権者の政治的志向(%)



\* URL : <https://interactivos.eluniversal.com.mx/2023/aprobacion-presidencial-may/>



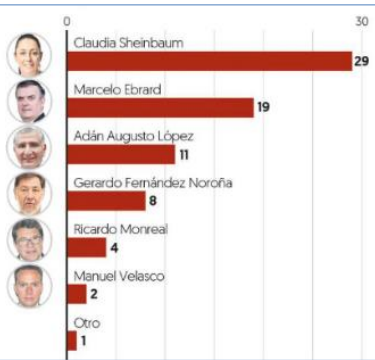
### 2024年大統領選挙：与野党の立候補希望者出揃う

2024年6月2日(日)投開票予定の次回選挙では、大統領、9州の知事(メキシコ市、チアパス、グアナファト、ハリスコ、モレロス、プエブラ、タバスコ、ベラクルス、ユカタン)、上下両院連邦議員、31州の州議会議員、メキシコ市の16区長、数多の自治体首長などが選出される予定だ。INE(連邦選挙管理庁)は公式の選挙活動開始時期を2023年9月としており、同月中に詳細な選挙規則を公表するという。大統領選挙に向けては、7月初旬時点で、与党連合「国家再生運動：MORENA」も、野党連合「メキシコのための拡大戦線：FAM」も、党内予備選による立候補表明者(corcholatas)の絞り込み=連合統一候補の選出に入っている。まとめ：編集人

#### 与党連合：シェインバウム前メキシコ市長が高支持

与党連合 MORENA は6月のメキシコ州とコアウイラ州の知事選に勝利した勢いを保ちながら、9月初旬には与党連合の統一候補を世論調査(党内予備選)で一人に絞り込む算段で、立候補意思表明者はすでに選挙遊説を展開している。7月初旬の世論調査の概要を下記に紹介する。

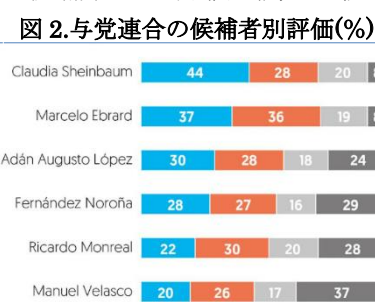
MORENA の立候補希望者7人のうち一番人気はシェインバウム Claudia Sheinbaum 前メキシコ市長で



回答者の29%の支持を集めている。第2位はエブラルド Marcelo Ebrard 前外相で19%、ロペス Adán Augusto López 前内相は11%、ノローニャ Gerardo F. Noroña 前下院議員は8%、モンレアル Ricardo Monreal 前上

院議員は4%、ベラスコ Manuel Velasco 元チアパス州知事は2%で、回答者の22%が態度未定、2%が回答を拒否(図1)。

#### 候補者別の評価(好き:嫌い)



候補者が44%:28%と好かれているが、エブラルド候補37%:36%、ロペス候補30%:28%、ノローニャ候補28%:27%などと好悪が拮抗している。(図2)。

(出所:図1&2ともに金融専門紙 El Financiero 紙7月17日付電子版。<https://www.elfinanciero.com.mx/nacional/2023/07/17/encuesta-ef-interes-en-proceso-de-las-corcholatas-de-la-4t-baja/>)

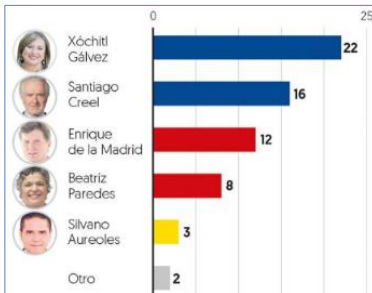
#### 野党連合：PANのガルベス上院議員に勢い

野党連合の「メキシコのための拡大戦線：Frente Amplio por México (FAM)」を構成する3大伝統政党別の6月末時点での出馬意思表明済候補者は下記の通りで、今後数回にわたる世論調査(党内予備選)を経て野党連合統一候補を選定する段取りだ。

PRD(民主革命党)のアウレオレス Silvano Aureoles 前ミチョアカン州知事は、メキシコの民主主義が危機的状況にあり、法治国家・国家の安定・国民の未来が脅かされていると訴求。パレデス Beatriz Paredes 上院議員は、政党同盟はより広範な人々を包摂すべきであり、自分は党内予備選に参画すると表明。PRI(制度的革命党)は昔の栄光を失いもはや風前の

灯火とも評されるが、マシユー Claudia R. Massieu 上院議員(元外相)は、現在メキシコは対立と分断の道を進んでいると指弾。デラマドリッド Enrique de la Madrid 元観光相(父は元大統領)も7月初めに立候補を正式に表明。PAN(国民行動党)のテジェス Lilly Téllez 上院議員は当選の暁には AMLO 大統領を投獄すると強調。また、クリール Santiago Creel 下院議長は立候補意思表示以来、世論調査で高い支持を保持。一方、ガルベス Xóchitl Gálvez 上院議員はもし候補者指名(dedazo:デダソ)があれば出馬しないと表明するも、世論調査では断トツの支持を確保。

野党連合候補の中では PAN のガルベス候補の支持



クリール候補が16%、PRIのデラマドリッド候補が12%、パレデス候補が8%、PRDのアウレオレス候補が3%の支持を得ている(図3)。

#### 候補者別の評価(好き:嫌い)



候補者別の評価(好き:嫌い)はガルベス候補が36%:34%、クリール候補が31%:30%だが、デラマドリッド候補28%:29%、パレデス候補27%:32%とともに好悪が逆転している(図4)。

(出所:図3&4ともに金融専門紙 El Financiero 紙7月18日付電子版。<https://www.elfinanciero.com.mx/nacional/2023/07/18/xochitl-galvez-despunta-en-preferencias-para-candidatura-del-frente-amplio-por-mexico/>)

また、独立系野党の MC(市民運動)はコロシオ Luis Donaldo Colosio モンテレイ市長が最有力候補とされるも、本人は市政専念を理由に出馬の意思表明を避けている。(この項完)

\*\*\*\*\*

あとがき：メキシコ・日本アミーゴ会総会はコロナ禍で開催できず会報誌上報告にて済ませてきましたが現在、メール形式で開催すべく取り組み中です。諸般整い次第ご案内します。前号紹介の特別展「古代メキシコ」@東京国博(9/3閉幕)のNHK特番次回放映は8/10地上波19:30~。アミーゴ会もメキシコ三大文明をテーマに歴史・文化講演会の連続開催を大使館と協議中。恒例の Fiesta Mexicana 2023 を9/16-17-18@お台場で開催準備中。2023年はメキシコ独立213周年&日墨修好135周年&ガレオン船の御宿漂着414周年。長い交流の歴史を紡ぐ両国の絆が草の根でも堅固たることを期待。灼熱の夏です。御自愛専心を。編集子の怠慢で本誌発行がまたも大幅遅延。寄稿者および読者のご寛恕を請います。併せてご投稿も鶴首します。[20230720か]